

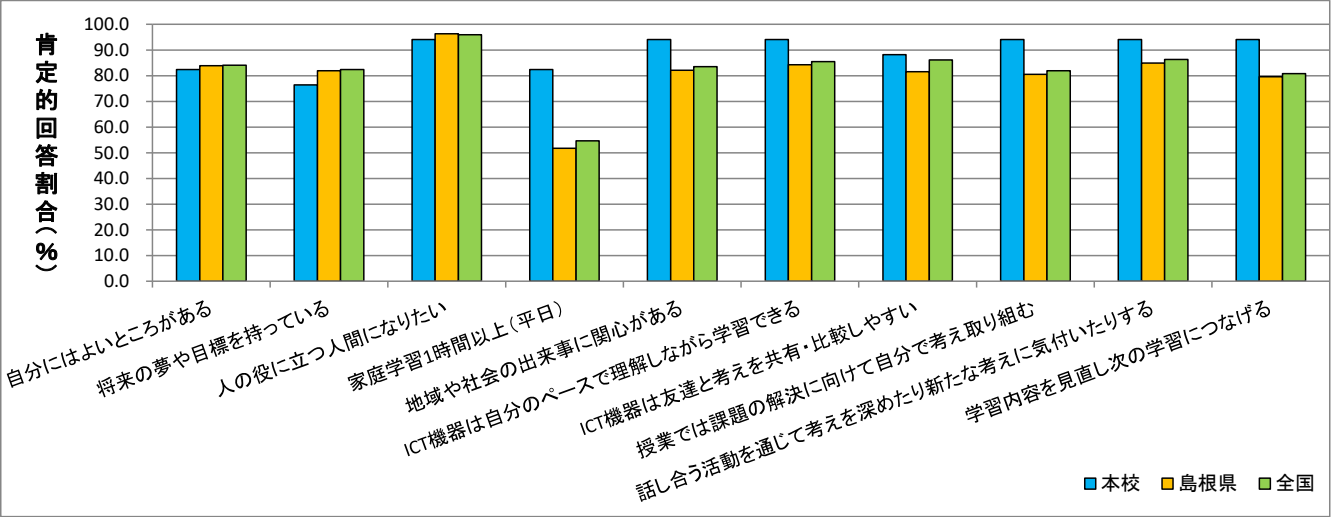
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○言語の特徴や使い方、情報の扱い方などの知識、技能についての正答率が高い。 ○目的や意図に応じて、事実や感想、意見などを区別して書くことができる。 ●登場人物の相互関係や心情などを描写をもとに捉えたり、人物像を具体的に想像したりすることが難しい。 ●目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関連付けたりして伝えたいことを明確にすることが苦手な児童が多い。	・登場人物の心情を問うような課題を設定し、児童がノートやタブレットで文章化する経験を積ませる。 ・人前でテーマを決めて話す機会を低学年の段階から設ける。
算数	○除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解できている。 ○示された情報をもとにして、表から必要な数値を読み取って式に表すことができる。 ●単純な計算ミスや操作ミスが多い。 ●文章の中から必要な情報を選び、使って立式することが難しい。	・正しく処理できた経験を増やすために、テンポよく、ペアで答えの確かめをする機会を作る。 ・たくさんの情報がある中で、必要な情報を選択する学習を組み立てる。

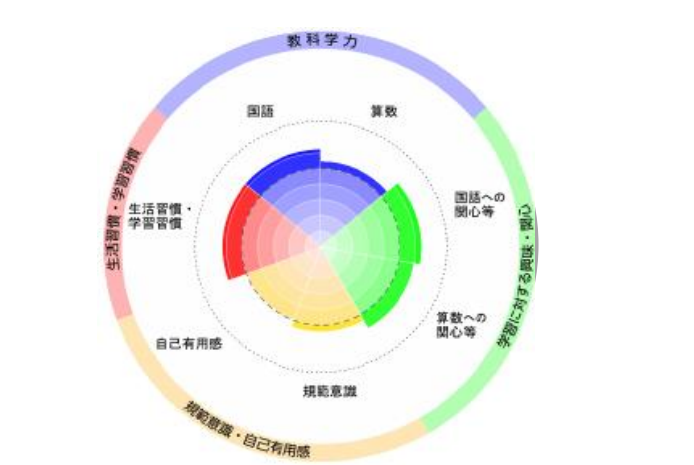
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。 ○自己肯定感が高い児童が多い。 ○「自分と違う意見について考えるのが楽しい」「お互いに協力して課題解決に取り組む」という児童の割合が平均よりも高い傾向がある。 ●学校での学習や人間関係は良好だが、「休みの日にどれくらい勉強していますか」「新聞を読んでいますか」などの家庭での取組については低い。	・家庭学習の時間を生活習慣の中に組み入れられるように1日のタイムマネジメントを考えたり、親子で取り組む学習を取り入れたりする。 ・家庭学習の定着を図るために、学年に応じた質と量を検討し、毎月行うチャレンジテストについて取組状況や結果等について家庭に情報提供することで、家庭との連携をさらに深める。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・国語・算数ともに情報を活用して生かすところに課題が見られるため、集めた情報から必要な情報を精査できる機会を作り、必要な情報を生かして自分の考えをまとめることができるようにする。
・児童が選書をする機会を設け、実際に図書館で貸し出しできるようにしたり、保護者の協力を得て、共に読書に取り組める時間をもたたりできるようにする。

【受検者数】
17 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。